

北海道から 青森県へ

氏名 川崎 史

北海道東川養護学校 → 青森県立八戸高等支援学校

(期間：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

1 派遣先での取組

○技能検定・発表会の取り組み

- ・清掃、PC入力、接客サービス等の技能について、県独自の検定があり、1年に1回発表会が行われる。県内各地から特別支援学校高等部の生徒が青森市の会場に集まり、各部門の技術を発表する。
- ・一般事業所などの担当者が審査を行い、上級、中級などの級が認定される。
- ・生徒はより上の級を目指し、ワークラーニング（作業学習）や職業に関する教科などの学習に意欲的に取り組んでいた。級の認定が自信や自分の課題を意識するきっかけになっている生徒が多かった。

○地域との関わりを深める様々な取り組み

- ・地域柄、伝統的な行事や芸能などが大切に受け継がれてきており、それらを取り入れた活動が多く取り組まれていた。地域の祭りでのよさこいソーランの発表、地域の方を講師に招いての伝統の踊りの講習など。
- ・人が多く訪れる観光地が近く、ごみ拾い、外来植物の駆除、駅の清掃などの奉仕活動に定期的に取り組んだ。地域の方に優しく声をかけられ、メディアの取材を受けることも多く、生徒にとっては励みになっていた。
- ・その他、近くの保育所での絵本の読み聞かせ交流、地域の物産を活かした高等学校との交流（海の生き物を介した水産高校との交流や農業高校でのりんごもぎの交流）など、生徒の実態に合わせた様々な取り組みがあった。

2 北海道に戻って実践したいこと

○生徒同士の学びあいを大切にしたい取り組み

- ・派遣校は、卒業後一般事業所での就労を目指す生徒や重度重複の生徒が在籍し、実態差が大きいこともあり、コース制や実態に応じた学習集団の編成がされていた。
- ・その中でも体育祭や学校祭などの学校行事や、ワークラーニング（作業学習）は学年や実態別ではなく、全体で取り組まれた。実態差が大きいことの難しさはあったが、上級生や下級生に手順やコツを教えたり、配慮しながら関わりあったりする様子もあり、実態差が大きいことの良さも感じる事ができた。
- ・教えあうことで理解を深める、関わりあう中で相手のことを考えるなど、生徒同士の学びあいを大切にしたい取り組みを実践していきたい。